

令和 4（2022）年度

運営に関する計画

（最終評価）

大阪市立加美中学校

(様式1)

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標及び年度目標

【学校理念 (使命)】

○安心・安全な学校 ○学力・体力の向上 ○人権尊重の精神

- ・基礎・基本の充実を図り、自主性の育成に努め、学力・体力の向上を図る
- ・自らを律し、互いに違いを認め合い、他者への思いやりの心を育て、人権尊重の精神を養う
- ・基本的生活習慣を身につけ、たくましく生きる力の基礎を育み、健康で活力ある学校生活をおくる生徒を育成する

【大阪市立加美中学校校訓】

自 主 ・ 協 同 ・ 明 朗

- ・自主的、創造的に知識、技能をみがき、高い協同意識のもと、お互いに愛しあい豊かな情操と強い身体をもつ明朗な生徒になろう

【生徒努力目標】

- ◆ 時間を大切にしよう
- ◆ 学校を美しくしよう
- ◆ あいさつをしよう

現状と課題

- ・日々の教育活動において、指導法の研究・工夫・改善に取り組んだ結果、生徒の学習に対する取り組み姿勢に良好な変化が見られる。様々な取り組みに対する変化はみられるが、全国学力・学習状況調査や英語能力判定テストなどにおいて、学力の向上を示す大きな数値変化は見られない。
- ・日々の教育活動の様々な場面で「互いを思いやる心の育成」を計画的・継続的に実践してきた。結果として、全ての学校行事において、生徒が協力し合う姿が発揮され、秩序ある集団活動ができつつある。しかし、集団に馴染めない一部の生徒の指導と育成が課題である。
- ・健康の大切さを理解させる取り組みの成果として、健康診断後の受診率が前年より向上している。一方、朝食を食べてこない生徒の割合に大きな改善は見られない。
- ・特別支援教育担当者、特別支援教育委員会を中心に全教職員が、一人ひとりを大切にしたきめ細やかな指導と支援を行い、個に応じた対応が拡充している。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

【安全・安心な教育環境の実現】

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

本校の中期目標

- ・学校教育アンケートの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 80%以上にする。

【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

- ・学校教育アンケートの「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。

【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

- ・毎年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

- ・学校教育アンケートの「相手の気持ちを考えて話をしたり行動したりしている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。

【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・学校教育アンケートの「自分にはよいところがあると思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。

【基本的な方向3 豊かな心の育成】

学校園の年度目標

- ・学校教育アンケートの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 75%以上にする。

- ・学校教育アンケートの「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。

【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

- ・年度末の行内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

- ・学校教育アンケートの「相手の気持ちを考えて話をしたり行動したりしている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。

【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・学校教育アンケートの「自分にはよいところがあると思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 65%以上にする。

【基本的な方向3 豊かな心の育成】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。
- ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 56%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 75%以上にする。

本校の中期目標

- ・学校教育アンケートの「授業が分かりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 75%以上にする。
【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】
- ・中学校チャレンジテストの対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も令和 3 年度よりいずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる。
【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】
- ・学校教育アンケートの「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。
【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】
- ・学校教育アンケートの「家でも学習している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 55%以上にする。
【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】
- ・学校教育アンケートの「読書が好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 65%以上にする。
【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】
- ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 55%以上にする。
【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】
- ・学校教育アンケートの「体を動かすことは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。
【基本的な方向 5 健やかな体の育成】
- ・学校教育アンケートの「自分の健康のために、食事に気をつけている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。
【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

学校園の年度目標

- ・学校教育アンケートの「授業が分かりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。

【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・中学校チャレンジテストの対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度よりも1ポイント向上させる。

【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・学校教育アンケートの「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を37%以上にする。

【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・学校教育アンケートの「家でも学習している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を50%以上にする。

【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・学校教育アンケートの「読書が好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。

【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を53%以上にする。

【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・学校教育アンケートの「体を動かすことは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を43%以上にする。

【基本的な方向5 健やかな体の育成】

- ・学校教育アンケートの「自分の健康のために、食事に気をつけている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。

【基本的な方向5 健やかな体の育成】

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・令和7年度末の大阪市調査において、授業日において学習者用端末を毎日使用した生徒の割合を100%にする。
- ・令和7年度末の大阪市調査において、教員の勤務時間上限に関する基準を満たす教職員の割合を75.4%以上（基準2）にする。

本校の中期目標

- ・学校教育アンケートにおいて、授業日において学習者用端末を毎日使用した生徒の割合を95%にする。

【基本的な方向6 教育D X（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

- ・大阪市調査において、教員の勤務時間上限に関する基準を満たす教職員の割合を73%以上（基準2）にする。

【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を90%以上にする。

【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・学校教育アンケートの「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」に対して、肯定的に答えない生徒の割合を令和3年度より3ポイント減少させる。

【基本的な方向8 生涯学習の支援】

- ・大阪市調査において、「学校は家庭・地域との連携を密にとっているかの項目について肯定的に答える保護者の割合を、80%以上にする。

【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

学校園の年度目標

- ・学校教育アンケートにおいて、授業日において学習者用端末をほぼ毎日使用した生徒の割合を90%にする。

【基本的な方向6 教育D X（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

- ・教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を85%以上にする。

【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・大阪市調査において、教員の勤務時間上限に関する基準を満たす教職員の割合を70%以上（基準2）にする。

【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・学校教育アンケートの「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」に対して、肯定的に答えない生徒の割合を令和3年度より1ポイント減少させる。

【基本的な方向8 生涯学習の支援】

- ・大阪市調査において、「学校は家庭・地域との連携を密にとっているかの項目について肯定的に答える保護者の割合を、75%以上にする。

【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

- ・令和7年度末の全国学力・学習状況調査において、「地域学校協働本部やコミュニケーションスクールなどの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」に対して、肯定的に回答する中学校の割合を77%にする。

【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

3 本年度の自己評価結果の総括

現在、落ち着いた雰囲気の中で授業や学校行事ができています。

運動会や文化発表会、泊行事などの行事を通じて、よりよい学級・学年集団を作りあげることができてきている。

数値目標は、【安全・安心な教育の推進】【未来を切り拓く学力・体力の向上】【学びを支える教育環境の充実】の各項目において、達成できなかったものもあったが、全体としては概ね達成できたのでBとした。

学級・学年集団の育成は全ての教育活動の基盤であり、確かな学力の確立やいじめをうまない集団作りの土台となる。このことを全教職員で再度共通理解を図り組織としての問題解決力を強化していく。また、生徒の自尊感情を高める支援や人権・道徳教育の充実、主体的・対話的で深い学びをテーマとした教員の授業改善、ICT 教育の充実、基礎基本の定着のためのきめ細かな個別の指導等に継続して取り組んでいきたい。

大阪市長 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

最重要目標「学びを支える教育環境の充実」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>【安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。 ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を75%以上にする。 ・学校教育アンケートの「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 <p>【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> | B |

| | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の行内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 <p>【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「相手の気持ちを考えて話をしたり行動したりしている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。 <p>【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「自分にはよいところがあると思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。 <p>【基本的な方向3 豊かな心の育成】</p> | |
|--|--|

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。 ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ・大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を56%以上にする。 ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を75%以上にする。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「授業が分かりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 <p>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校チャレンジテストの対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度よりも1ポイント向上させる。 <p>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を37%以上にする。 <p>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「家でも学習している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を50%以上にする。 | B |

| | |
|---|--|
| <p>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「読書が好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。 <p>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市英語力調査におけるC E F R A 1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を53%以上にする。 <p>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「体を動かすことは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を43%以上にする。 <p>【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「自分の健康のために、食事に気をつけている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。 <p>【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> | |
|---|--|

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度末の大阪市調査において、授業日において学習者用端末を毎日使用した生徒の割合を100%にする。 ・令和7年度末の大阪市調査において、教員の勤務時間上限に関する基準を満たす教職員の割合を75.4%以上（基準2）にする。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートにおいて、授業日において学習者用端末をほぼ毎日使用した生徒の割合を90%にする。 <p>【基本的な方向6 教育D X（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を85%以上にする。 <p>【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市調査において、教員の勤務時間上限に関する基準を満たす教職員の割合を70%以上（基準2）にする。 <p>【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たり | B |

どれくらいの時間、読書をしますか」に対して、肯定的に答えない生徒の割合を令和 3 年度より 1 ポイント減少させる。

【基本的な方向 8 生涯学習の支援】

- ・大阪市調査において、「学校は家庭・地域との連携を密にとっているかの項目について

肯定的に答える保護者の割合を、75%以上にする。

【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

- ・令和 7 年度末の全国学力・学習状況調査において、「地域学校協働本部やコミュニケーションスクールなどの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」に対して、肯定的に回答する中学校の割合を 77%にする。

【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

教頭

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

最重要目標「学びを支える教育環境の充実」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | | 達成状況 |
|--|--|------|
| 取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・働き方改革の推進を行う。 | | B |
| 指標 大阪市調査において、教員の勤務時間上限に関する基準を満たす教職員の割合を70%以上（基準2）にする。 | | |
| 取組内容②【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 ・学校行事、お知らせを適宜、更新し、地域・保護者への情報提供を積極的に行う。 | | B |
| 指標 毎日学校ホームページを更新し、年度末に学校ホームページへのアクセス回数を10万回以上にする。 | | |
| 取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 ・地域学校協働活動を推進する。 | | B |
| 指標 大阪市調査において、「学校は家庭・地域との連携を密にとっているかの項目について肯定的に答える保護者の割合を、75%以上にする。 | | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | | |
| <p>・部活動指導員（吹奏楽、バレーボール、女子バスケットボール、柔道）を、配置することで勤務時間の短縮を行った。</p> <p>大阪市調査（12月）において、教員の勤務時間上限に関する基準を満たす教職員の割合（基準2）は65.8%で目標値の70%以上には届かなかったが昨年度58.8%よりは改善された。</p> <p>・ホームページへのアクセス数は2月21日現在106000回を超えている。しかし、5月に43000回のアクセスがあり、アクセス数を伸ばす工夫が必要である</p> <p>・地域との連携も密にとるよう努力した。</p> <p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> | | |
| <p>引き続き、働き方改革の推進を行い、教職員の気持ちに少しでも余裕ができるようにしたい。</p> <p>ホームページ葉の記事を掲載する教職員を増やすための工夫が必要である。</p> | | |

教務部

大阪市内 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

最重要目標「未来を切り拓く学力・体力の向上」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| | | |
|--|--|------|
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | | 達成状況 |
| 取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動を通じて「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善に取り組む。 | | A |
| 指標 学校教育アンケートの「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を37%以上にする。 | | |
| 取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 学習習慣や定着を図るため、効率よく宿題や提出物を計画的に課す。 | | C |
| 指標 学校教育アンケートの「家でも学習している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を50%以上にする。 | | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | | |
| 取組内容① 学校教育アンケートの「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合は38.1%となり、目標値を上回った。 | | |
| 取組内容② 学校教育アンケートの「家でも学習している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は43.0%となり、目標値を下回った。 | | |
| 次年度への改善点 | | |
| ○今後もグループワーク等の協働的な学びを授業に取り入れていく。 ○学校教育アンケートの「家でも学習している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は、年々減少傾向にあり、自主的に学習する、家庭で学習することの大切さを伝えていく必要がある。 (H31年55.4% → R2年49.0% → R3年43.5% → R4年43.0%) ○学校教育アンケートの「家でも学習している」では、塾の時間以外で回答させているので、次年度からは、塾や天声人語の取り組みも学習時間に含めるべきだと考える。 | | |

教務部

大阪府立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

最重要目標「学びを支える教育環境の充実」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| | | |
|--|--|------|
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | | 達成状況 |
| 取組内容【基本的な方向6 教育DXの推進】 授業の中でのICT活用を促進し、端末持ち帰りによる家庭学習を推進する。 | | B |
| 指標 学校教育アンケートにおいて、授業日において学習者用端末をほぼ毎日使用した生徒の割合を90%にする。 | | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | | |
| 学校教育アンケートに該当する項目がなかったため、数値目標を達成できたか判断できないが、各教科でのタブレット使用や朝の「心の天気」の入力等で、学習端末の使用機会は昨年度より増加したと予想される。 | | |
| 次年度への改善点 | | |
| ○授業での活用を促進するために、ICT支援員と協力しながら、様々な使用例を提案していく。 ○部活動・委員会・生徒会活動などでも学習用端末を活用できるようなシステムを考えていく。 | | |

学力向上委員会

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「未来を切り拓く学力・体力の向上」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>取組内容【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 全教職員が年1回以上の公開授業を実施し、各教員の指導力の向上を目指す。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「授業が分かりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 ・中学校チャレンジテストの対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度よりも1ポイント（1%）向上させる。 | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・一学期末に学力向上委員会を開き、今後の運営について基本的な方針を固めた。 ・9月実施の三年生チャレンジテストでは、計画内容と実施報告を進めた。 ・1～2年生のチャレンジテストの、計画内容と実施報告を進めた。 ・全国学力調査とチャレンジテストの分析を進めた。 ・週に1回程度、天声人語の視写を実施。提出率は、3年生90%、2年生50% 1年生50%である。 ・全教職員が年1回以上の公開授業の実施について、32名中18名が実施済みである。（2月17日現在） ・学校教育アンケートの「授業が分かりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は、7月83.8% 12月87.1%となり、目標を達成している。 ・3年生のチャレンジテストの平均比は、前年度3.18に対し、今年度3.15のため、目標達成とならなかった。1・2年生の平均比は、結果が分かり次第とする。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・1～2年生のチャレンジテストの結果が分かり次第、分析に入る。 ・天声人語の提出率改善に向け、内容の変更や放送による音読を計画する。 | |

生活指導部

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「安全・安心な教育の推進」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員があらゆる場面で、いじめは絶対に許されないものであることを指導し、いじめを未然に防ぐように努め、早期発見、対応に協力して取り組んでいく。また、毎学期ごとのいじめ等アンケートの調査結果を受けて、いじめ対策委員会を開催し、いじめの実態、問題行動の把握と未然防止、早期発見と情報交換、解決にむけて学校として取り組んでいく。 ・問題行動について会議の時や日頃から情報交換を行い、情報を共有し、問題発生時には職員全体が協力・連携して、対応にあたるようにする。 ・教員が生徒会の専門委員を分担し、生徒会活動を充実させる。 ・学校行事、学級活動、部活動などを通じ、集団意識を高める。 ・教育相談の機会も継続し、綿密な状況把握と生徒との信頼関係の構築と維持を図る。 | B |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止、早期発見、解決に全教職員で協力して取り組む。また、いじめアンケート調査を行い、早期発見、情報共有に努める。 ・本年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を90%以上にする。暴力行為を複数回行う生徒を0にする。 ・校務部会、職員会議の時や常日頃から、適宜情報交換を行い、生活指導の共通理解を図り、問題発生時には職員が、協力・連携して指導にあたる。 ・全教員で生徒会の専門委員を分担し、生徒会活動を充実させる。 ・運動会や文化発表会などの学校行事や、球技大会、水泳大会などの学年行事、部活動などを通して、集団意識形成の機会の場を設ける。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員があらゆる場面で、いじめは絶対に許されないものであることを指導し、いじめを未然に防ぐように努め、早期発見、対応に協力して取り組むことができた。また、毎学期いじめアンケートを実施した。いじめ対策委員会を定期的に開催し、現状の情報を共有した。 ・教員が生徒会の専門委員を分担し、生徒会活動を充実させるために活動ができた。運動会などの行事に取り組み、部活動などを通じ、集団意識を高めるように指導することができた。 ・教育相談の機会を設けるなど、生徒の実態把握のために具体的な行動を全体で取り組めるようにした。 | |
| 次年度への改善点 | |

- ・今後も引き続き、いじめ対策委員会を定期的に行い、アンケートも活用していじめの未然防止、早期発見と解決にむけて取り組んでいく。また、教育相談の機会も継続し、生徒のより綿密な状況把握に取り組む。
- ・今後も会議や常日頃から、適宜情報交換を行い、生活指導の共通理解を図っていく。また、問題発生時に職員が、協力・連携して指導にあたるようにして、問題行動の件数や学校の状況の改善に取り組んでいく。
- ・SCにかかっている生徒の情報を交換できる場を設定し、より一層密に情報交換を行えるようにする。

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「未来を切り拓く学力・体力の向上」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| 取組内容①【基本的な方向5、健やかな体の育成】 ・部活動参加率の向上を狙い、部活動がより充実して活動できるように、必要な機材や備品の購入をすすめる。また、外部指導者の制度を活用し、より部活動を充実させる。 | B |
| 指標 ・部活動に必要な機材や備品を購入し、外部指導者の制度を活用して、部活動を充実させる。また、生徒会説明会などで小学生に部活動参加を呼びかける。 | |
| 次年度への改善点 | |
| ・今後も部活動に必要な機材や備品を購入したり、必要に応じて外部指導者の制度を活用することで、部活動を充実させ参加率の向上をはかる。 ・部活動参加を呼びかける取り組みを継続していく。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| ・部活動の参加率（入部率）は昨年度を下回った。 ・生徒会による部活動体験を行い、新入生に部活動の魅力を発信できた。 ・外部指導者制度を活用し部活動を充実させることができた。 | |

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「学びを支える教育環境の充実」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|--|------|
| 取組内容①【基本的な方向番号9、地域学校協働活動の推進】 ・生徒の特に気になる様子や行動については、迅速に家庭連絡をとり、家庭と協力・連携して、指導にあたるようにする。 ・地域や消防署等と連携した防災教育を実施し、地域学校協働活動の推進を図る。 | B |
| 指標 ・必要時には素早く家庭連絡を行い情報を共有することで、家庭と学校が協力・連携して、指導にあたるようにする。 ・地域や消防署等と連携した防災教育を年2回実施する。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| ・日頃から迅速に家庭連絡をとり、家庭と協力・連携して指導にあたるようにした。 ・地域、消防、区役所と連携し、避難訓練や防災訓練を計画・実施できた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| ・今後も継続して家庭連絡をこまめにとり、学校と家庭が協力・連携して指導にあたるようにする。 ・防災教育は3年間を見通した実施計画なので、適切な時期に実施できるよう準備しておく。 | |

保健環境部

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「安全・安心な教育の推進」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | | 達成 状況 |
|--|--|----------|
| 取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】 ・保健委員会、美化委員会の活動を通じ、校内美化と健康に対する意識を高める。 | | B |
| 指標 ・専門委員会で石鹸や洗剤の補充をし、普段の清掃では行き届かない所の清掃も行う。 ・油引き・大掃除を学期に1回実施する。 | | |
| 取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】 ・子どもたちの安全面に配慮した、校内環境づくりに努める。 | | |
| 指標 ・学期に1回破損調査を行い、不備のある部分については早期に発見する。 | | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | | |
| ・校内美化を徹底できるように、次年度も生徒主体で啓発活動を行っていきたい。 ・特に大きな校内の不備や破損はなかったが、今以上に故意や不注意による破損がなくなるように引き続き指導を継続していく。 | | |
| 次年度への改善点 | | |
| ・月1回専門委員会で、指標の内容通りの活動はできている。 ・油引きはマニュアルを作成し、実施することができた。 ・破損調査は学期に1回実施できており、修繕などは適宜報告を受けて管理作業員さんをお願いしている。 | | |

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「未来を切り拓く学力・体力の向上」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| 取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ・「食育つうしん」や食育指導を通して、生徒や保護者の食育意識を高める。 | B |
| 指標 ・「食育つうしん」を定期的に発行する。 ・年に1回以上食育指導を行う。 | |

| | |
|--|---|
| <p>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>・「保健だより」などを通して疾病予防及び心の健康への意識を高め、心身ともに健康に生活するための育成を図る。</p> | B |
| <p>指標</p> <p>・毎月1回「保健だより」を発行する。また、アンケートなどを用いて生徒の実態を把握しながら、心身の健康に対する意識を高める活動につなげる。</p> | |
| <p>取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>・各種検診の結果を伝える際に配布物を使用するとともに、懇談等で保護者に呼びかけ治療意識を高める。</p> | B |
| <p>指標</p> <p>・昨年度以上の治療率・受診率の向上を図る。齲歯の治療率に関しては20%以上を維持する。</p> | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>・食育だよりは指標通り行うことができています。</p> <p>・食育指導は3学期に1年生で実施済みである。</p> <p>・毎月1回保健だよりを発行できている。</p> <p>・アンケートを実施し、生徒の生活習慣の実態を掴み食育指導に繋げていくことができた。</p> <p>・各種検診の受診率は、眼科40.5%、耳鼻科25.0%、聴力100%、尿検査33.3%、歯科25%であった。聴力・内科は昨年度よりも高い受診率を得ることができた。齲歯の受診率についても20%以上を維持できた。</p> | |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| <p>・食に関する指導を通して生徒の意識を高めることができた。次年度はさらに指導内容に工夫をしていきたい。</p> <p>・各種検診の受診率は、昨年度より上昇したものもあれば、低下したものもあった。次年度は今年度を上回る受診率にするため、「受診のおしらせ」の配布や懇談での呼びかけを通して、状況に応じて受診をしてもらうように声掛けを続けていく。</p> | |

1 年

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「安全・安心な教育の推進」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| <p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> | <p>達成 状況</p> |
|--|------------------|
| <p>取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>・特活・道徳・総合を活用し、自己実現や他者理解に向けた取り組みを実施する。</p> <p>・様々な行事や取り組みを行い、将来の希望や展望を持たせる。</p> | B |
| <p>指標</p> | |

| | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・反戦平和・性教育・人権教育・キャリア教育等、学年の課題に応じた集中講座を年3回以上実施する。 ・行事後はアンケートや作文に取り組み、さらに深い理解や自己表現につなげる。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・反戦平和・性教育・キャリア教育を行うことができ、作文等にも取り組ませることで深い理解や自己実現につなげることができた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 3年間継続していきたい。 | |

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「未来を切り拓く学力・体力の向上」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| 取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・学力向上のため、基礎・基本を徹底させ、自ら学ぶ精神を養う。 | B |
| 指標 ・朝読・朝学を年間を通して実施する。 ・テスト計画を行い、計画性をもって学習に取り組む姿勢を養う。 ・テスト前には放課後に教室を開放し、自習・教え合いの場を提供する。 ・長期休業中に補習授業を実施する。 | |
| 取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ・様々な行事を通して、体力の保持増進及び興味関心を持たせる。 | B |
| 指標 ・校外学習を年1回実施する。 ・球技大会を年1回実施する。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| ・テスト計画を毎回行い、計画性をもって学習に取り組む姿勢を養うことができた。 ・テスト前には放課後に教室を開放し、長期休業中にも補習授業を実施し学力向上に努めた。 ・一泊移住や球技大会を行い体力向上・リーダー育成に努めた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 3年間継続して基礎学力の徹底や体力向上に努めていく。 | |

2 年

大阪市立 加美中学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「安全・安心な教育の推進」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成 状況 |
|---|----------|
| <p>取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳・総合・特活を利用し、自己実現に向けた取り組みを実施する。 ・ 様々な行事やキャリア教育を通し、将来の希望と展望を持たせる。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳・総合・特活を使い、現状の課題にあった活動及びキャリア教育を実施する。 ・ 様々な行事を通して、仲間意識が持てるようアンケートを実施する。 | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育アンケートの「相手の気持ちを考えて話をしたり、行動したりしている」項目に関して肯定的な回答が 94.9%、「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか」項目に関して肯定的な回答が 79.1%であった。今後もこの結果を維持、向上できるよう授業を練り、指導していきたい。 ・ 文化行事や校外学習（大阪城公園内の史跡と戦跡について）の体験を通して、仲間づくりの大切さや進路への展望を持たせられる結果となった。 ・ 性教育では生徒が主体となる活動を行い、人との関わり方について考えることができた。 ・ 進路学習では、高校の講師を招き体験授業を実施した。その結果進路への意識が高まり、将来について考える取り組みができた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度は道徳、総合、特活を利用し、学年、学級の仲間づくりの大切さや主体的に進路への意識を持てるよう様々な取り組みを考えていきたい。 | |

大阪市立 加美中学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「未来を切り拓く学力・体力の向上」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成 状況 |
|---|----------|
| <p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上のため、基礎基本となる学習を身に着け、自ら学ぶ精神を養っていく。 | B |

| | |
|--|---|
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝読を年間通して実施する。 ・自ら課題を発見するために、テスト計画を密に行い、計画性を持って学習に取り組む。 ・特活、総合の時間を利用して自主的に学習する環境を整える。 ・長期休業中に補充授業を実施する。 | |
| <p>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技大会やスポーツ大会を実施する中で体力の増進を行う。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習を 5 月に実施する。 ・球技大会を年 1 回以上実施する。 | B |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・朝学活の時間は落ち着いて読書ができた。 ・定期テスト前には学習の計画表を立て計画的に学習するように促した。また、学習時間を確保するため、放課後教室を自主学習用に使用するなど学習を行える環境を用意した。 ・年間を通して、学習する姿勢は身に付いてきたように感じるが家庭学習に取り組む時間や姿勢が伺えなかった。来年度は家庭学習に取り組む時間を増やせるよう考えていきたい。 ・体育的行事は実施予定。仲間づくりや運動に関する興味、関心を高めることを目的として実施したい。 | |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・12月に実施したリーディングスキルテストの結果を踏まえ、次年度はリーディングスキルテストに向け、意欲的な取り組みを考えていきたい。 ・来年度は進路を見据え、家庭学習の時間を増やせるよう働きかけていきたい。 ・体育的行事については、学年の状況を考えて取り組んでいきたい。 | |

3 年

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「安全・安心な教育の推進」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】 キャリア・パスポートや外部講師を活用しながら、自分らしい生き方の実現に向けキャリア教育を進めていく。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学期の進路懇談や進路委員会で、全員の進路を保障する。 年間2回の進路説明会を行う。 1学期に外部講師を招き、キャリア教育としてSPトランプを行う。 進路に向け、基礎学力の向上を目的とした取り組みを行う。 | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 人権教育の実践により、生徒が社会の様々な人権課題に対する正しい理解と認識を持てるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳・総合的な学習の時間・特別活動を通して、生徒の抱える課題に対応する人権教育を年間1回以上実践する。 学校教育アンケートの「自分にはよいところがあると思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。 | B |
| <p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 様々な行事での協働を通して、互いを認め仲間意識を向上させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学校教育アンケートの「相手の気持ちを考えて話をしたり行動したりしている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。</p> | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 反戦平和・性教育・人権学習すべてにおいて、生徒の実情に応じた学習教材を準備していきたい。また、1年生から進路についての関心、意欲を持たせるための進路学習を実施していきたい。 学校教育アンケートの「自分にはよいところがあると思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は77%以上であり、目標を達成することができた。 学校教育アンケートの「相手の気持ちを考えて話をしたり行動したりしている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上であり、目標を達成することができた。 今年度はリーディングスキルテストの実施時期が遅く、生徒の取り組む意欲が低かった。次年度は、実施の仕方を工夫し、効果的に経年調査ができるようにする。 | |
| 次年度への改善点 | |

- ・学年の状況に応じた人権教育や行事を計画し、自己肯定感を育む活動をしていきたい。
- ・学級、学年が「仲間意識」を持つことができる取り組みを1年から継続的に行っていきたい。

人権教育委員会

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート） 最重要目標「安全・安心な教育の推進」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年・学級・部・委員会・校内組織と連携し、子どもの生活実態や生活課題を把握し、共通理解をはかる中で、子どもの学ぶ力、生きる力を育む実践を創造し、人権教育を推進する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和学習の取組を行う。（取り組み課題に応じて時期を考える） ・各学年の課題に応じて、生と性の学習を行う。 ・在日外国人問題・多文化理解、障がい者問題、平和学習、いじめ、情報化社会等の人権課題について、子どもの思いや意識を把握し、教職員の共通理解に立った人権教育を推進する。 | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての子どもを「違う個性、可能性を持った存在」として捉えると共に、「それぞれの家庭や地域における生活を背景に持ち」「学級や学年の中で、学び育つ存在」として捉え、一人ひとりを大切にする教育を推進し、集団や社会の中で生きる力を育む実践を進めていく。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人教育の取組みとして国際クラブ「三千里の会」を毎週月曜日に行う。 ・国際理解教育では東南ハギモイム（8月）、東南子ども民族音楽会（12月）、加美モイム（2月）等に参加し自らの民族性を自覚し誇りを持って生きていく力を育てる。また、ワールドトーク（9月）や、中国語弁論大会にも積極的な参加を促し、他校の生徒と交流を深める場を提供する。 | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・目標通りに実践できた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習の年間計画を年度当初に立て、計画的に実践していく。 ・3年間を通して、系統だった学習ができるよう、外部講師の依頼先や連携施設等を整理しておく。 ・教科の学習と連携させ、学校での教育活動の中で包括的な人権学習を進めていく。 | |

- ・集中実践として行った人権学習の指導案や資料等を整理していく。
- ・職員に対して、「三千里の会」の活動の連絡を丁寧に行っていく。
- ・人権教育に関する職員研修を年に1回は行う。

国語科

大阪市長 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「未来を切り拓く学力・体力の向上」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>わかりやすい板書を目指す。特に古典文学の単元では、タブレット端末を活用する。また、授業プリントやワークシートを有効に活用することで、基礎的な内容から、発展的内容まで広く取り組めるよう授業を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字や語彙を中心に、課題を出し、基礎学力の定着を図ると共に自主学習の習慣を身につけさせる。 ・様々な朗読方法を導入し、「読む」・「聞く」力を伸ばす工夫をする。また、図書室と連携して読書に親しませる。 <p>指標「国語が好きだ」という生徒を入学・進級時より増やす。</p> | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古文や近現代文の朗読や暗唱をする。また、書写や百人一首、短歌や俳句などを通して日本の伝統文化に触れる機会を作り、豊かな心を育てる。 ・作文を教材に応じて取り入れ、「書く」・「話す」力を育成する。 ・教員間で教材や教授方法を協議し、魅力的な授業作りを図る <p>指標「国語の授業がわかる」という生徒を入学・進級時より増やす。</p> | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| ICT 機器を使い、わかりやすい板書づくりに努めた。漢字プリントやテストを定期的に行い、自主学習の習慣が定着するように努めた。俳句・短歌の創作や暗唱テストを通じて日本の伝統文化に触れる機会を作ることができた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 自主学習の習慣が定着するよう、引き続きプリントやテストを用いて指導していきたい | |

大阪市長 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「学びを支える教育環境の充実」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に前時の復習や、小テストを実施して基礎的・基本的な内容の定着を行う。 ・必要に応じて、授業プリントの作成やICTを活用し、生徒が学習内容を理解しやすいように工夫する。 ・授業では、社会的事象に関する問いを工夫し、生徒に疑問を持たせ、疑問や課題解決に向けて主体的に学習に取り組める環境を整える。 ・ | B |
| 指標 ICT機器を利用し、生徒の学習の理解度を深める | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・小テストや家庭学習課題を継続して行ったことで、家庭学習の習慣を身に付けさせることができた。 ・グループ学習を積極的に行い、話す、聞く力の育成ができた ・漢字や語彙について、家庭学習課題に取り組み、基礎学力の定着を図ることができてきたが、まだ身についていない生徒もいるので、今後も継続していきたい。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>習熟度授業を積極的に行うために、教室を整備して利用していきたい。</p> <p>相互授業見学をもっと積極的に行い、情報交換しながら魅力的な授業づくりができるように努めたい</p> | |

社会科

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「未来を切り拓く学力・体力の向上」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | | 達成 状況 |
|---|--|----------|
| 取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・授業中に前時の復習や、小テストを実施して基礎的・基本的な内容の定着を行う。 ・学習内容によっては、教科の教員間で連携や複数の教員での指導などを通して、生徒が学習内容を理解できるようにする。 ・教科内で相互授業参観を積極的に行い、意見交流などを通して授業力の向上を図る。 | | B |
| 指標 ・基礎的・基本的な内容を確実に定着させ、「社会の授業がわかる」という生徒を入学・進級時より増やす（アンケートを実施する）。 ・基礎的・基本的な内容を確実に定着させるために、課題を出し、提出させる。 | | |
| 取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・授業では、社会的事象に関する問いを工夫し、生徒に疑問を持たせ、疑問や課題解決に向けて主体的に学習に取り組める環境を整える。 ・社会的事象について調べ、まとめる課題学習を年に一度以上行い、生徒間のコミュニケーションやプレゼンテーションの能力の向上を図る。 | | B |
| 指標 ・実体験に基づく学習を進めるために、調べ学習を年に1度以上は行う。その際に、考察・討論・発表などの活動を積極的に取り入れ言語活動の充実を図り、コミュニケーション能力を高めていく。 | | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | | |
| 社会的事象に関する知識の定着を図るために小テストやプリント学習を行ってきた。また学年間で授業参観や情報共有などを行い、生徒の理解を深める授業力の向上に取り組んでいった。社会的事象の知識理解を向上させていく中で、漢字を苦手に行っている生徒が多く見られた。具体的には、社会的事象の知識理解はあってもテストでは、漢字で正確に書けないので不正解になるという事案があった。 | | |
| 次年度への改善点 | | |
| 基礎的・基本的な社会的事象の知識を確実に定着させていく活動を来年度も引き続き取り組んでいく。またそのような力を身に付けていく中で | | |

最重要目標「学びを支える教育環境の充実」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | | 達成 状況 |
|---|--|----------|
| 取組内容①【基本的な方向6 教育D Xの推進】 ・必要に応じて、授業プリントの作成や ICT を活用し、生徒が学習内容を理解しやすいように工夫する。 ・日々、社会科授業の中で生徒同士の交流や話し合い活動を行い、自身とは異なった意見や感想を、自身の中に取り入れながら、自身の考えや意見、感想を更に深い学びへと繋げていけるような教育活動の充実を図る。 | | B |
| 指標 ・ICT 機器を有効に活用し、生徒の理解がより深まるように教材研究を行う。 ・社会科教員相互に情報交換や共同で教材研究を行うことなどを通して、生徒の深いへ繋がるようにしていく。 | | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | | |
| 生徒同士での情報共有や話し合いの場設定した授業を年間、通じて行うことができた。またタブレットを使用した探求学習等を行い、社会的事象に関する相互理解や相互の意見交換を行うことができた。 | | |
| 次年度への改善点 | | |
| より生徒が活躍できる場を設け、自身の言葉で表現できるように指導を行い、思考・判断・表現の力の育成を来年度も実施していく。 | | |

数学科

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「安全・安心な教育の推進」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】 論理的に物事を捉え、解決することができる力を育成する。 OODAループを取り入れた授業を日々展開する。</p> <hr/> <p>指標 「数学の授業が分かる」という生徒を入学時・進級時より増加させる。</p> | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>年間を通じて週に1回以上の頻度で論理的な思考を育成することをねらいとした授業を展開することが出来た。しかしながら論理的な思考の成長の差が個々によって大きく、生徒を主体とした授業を展開すると生徒によって発言や発表の頻度に偏りが生まれた。数学の授業が分かるという生徒の割合は入学時・進級時と比べ増加傾向である。</p> | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>日々の数学の授業が分かるという生徒を更に増加させる、論理的な思考を引き続き成長させるためにも生徒の実情に応じたきめ細やかな指導を次年度も実施する。</p> | |

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「未来を切り拓く学力・体力の向上」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 基礎学力の定着を徹底すべく、生徒の必要に応じて学習の補助を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> | B |

| | |
|--|--|
| 各単元において到達度テストを行い、目標数値に達することができていない生徒に対して適宜、補充学習を行う。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 当初の計画通り年間を通じて3学年とも各単元において到達度テストを実施することができた。補充学習についても必要に応じた頻度で実施することができており、定期テストにおける基礎学力を問う問題の正答率が上昇していることから、一定の成果は出ていると思われる。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 次年度も引き続き、個に応じた学習の補助を定期的に実施することで基礎学力が更に定着するように努める。 | |
| | |

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「学びを支える教育環境の充実」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| 取組内容①【基本的な方向 6 教育DXの推進】 基礎学力を効率的に定着させることができるツール（ドリルやアプリなど）を日々の学習活動において積極的に使用する。 | B |
| 指標 基礎学力を問う問題（本校で実施するテストにおいて）の正答率を各学年60%以上を目指す。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 基礎学力を問う問題の正答率は各学年とも年度目標の指標である60%以上を達成することができたが、下半期の目標値である80%は下回る結果となった。一人一台端末内のアプリの活用については親機からスクリーンへの提示のみではあるが活用することができた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 次年度も引き続き基礎学力の向上を目指し、一人一台端末の更なる活用方法についても模索する。 | |

理科

大阪市内立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「安全・安心な教育の推進」

| | |
|---|--|
| 評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった | B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |
|---|--|

| | |
|--|----------|
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成 状況 |
| 取組内容①【基本的な方向2、豊かな心の育成】 授業において積極的に質問を投げかけ、様々な考えを引き出し、多様な価値観を共有できるような授業を展開する。この際、様々な意見を気後れなく出せるような授業の雰囲気を作っていく。 | B |
| 指標 チャレンジテストの状況調査アンケートにおいて「授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。」と「授業中、間違っても笑われない。」の項目で肯定的な意見を70%以上にする。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 上半期同様に授業や実験においてグループワーク等で意見を交換し、発表する授業展開を全学年で実施できた。グループワークを行うことにより普段受け身になっている生徒も少しずつ意見を述べるようになり、引き続き実施していきたい。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 今後もグループワークを行っていく上で自教科だけでなく、様々な教科と連携を行い、より質の高いグループ討議ができるように進めていきたい。 また討論の際の情報収集や発表方法などはICT機器を有効に活用し行っていきたい。 | |

大阪市内立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「未来を切り拓く学力・体力の向上」

| | |
|---|--|
| 評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった | B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |
|---|--|

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>視覚的にわかりやすい授業の展開を基盤とし、小テストや家庭学習用に教材を作成し、知識の定着を図る。また実験だけでなく通常授業でも発言の場を増やし、様々な考えが飛び交う授業展開を目指す。</p> | B |
| <p>指標</p> <p>小テストを年6回以上行う。</p> <p>チャレンジテストの状況調査アンケートにおいて「授業中、話し合う活動を</p> | |

| | |
|--|--|
| 通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。」の項目で肯定的意見を70%以上にする。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>全学年で年間を通じて目標以上の回数の小テストを行ことができた。</p> <p>小テストでは同じ内容を1度でなくスモールステップで難易度を上げ、小テストを行った際、正答率が8割以上になるように工夫している学年も見られた。</p> <p>また計算等の分野では班でリーダーを決めリーダーを中心に教え合いの場を作ることによって全員が積極的に問題解決に努めることができた。</p> | |
| 次年度への改善点 | |
| 来年度も小テストなどを引き続き行い、ただ行うのではなく正答率なども考慮し、多くの生徒に「できる」を実感することができる学習の場を作っていきたい。 | |

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「学びを支える教育環境の充実」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| 取組内容①【基本的な方向6、教育D Xの推進】 タブレットやプロジェクターを用いて視覚的にも理解しやすい授業を展開すると共に家庭学習にも活用していく。 | B |
| 指標 タブレットを活用する学習活動を年3回以上行う。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 資料提示や動画等の上映などにプロジェクターを有効に活用することができた。 また、タブレットを使用した授業展開を行ったが、年間3回には至らなかった。今後はさらなる有効活用を目指したい。 | |
| 次年度への改善点 | |
| プロジェクター等の活用に関しては十分有効的に活用できているので今後も継続して積極的に活用していきたい。 タブレットに関してはまだまだ本格的な活用に至っていないので他校の使用例などを参考にし授業に生かしていくと同時に、タブレットの持ち帰りも考慮した教材作りも行っていきたい。 | |

音楽科

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「安全・安心な教育の推進」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| 取組内容①【基本的な方向2、豊かな心の育成】 ・音楽に対する感性を豊かにできる授業実践。 ・音楽に対する感性とは、音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取るときの心の働きを意味すると考えられている。 | B |
| 指標 ・生徒が感性を働かせる場面を作るために、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る場面を設定する。 | |
| 次年度への改善点 | |
| お箏を用いた旋律の創作（創作）や、リコーダー演奏（器楽）の授業を行った。様々な分野の授業を行うことで、興味を持って意欲的に活動できる生徒の姿をみることができた。次年度も、創作や器楽分野を含めた授業実践を行うとともに、生徒が関心をもって意欲的に活動に取り組めるような授業デザインに力を注いでいく。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 生徒が感性を働かせる場面を作るために、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る場面を設定できた。そうすることで、ただ音楽を聴くだけでなく、根拠を持って音楽のよさを言葉で伝えたり、音楽から感じ取ったことを音で表現したりする生徒の姿をみることができた。 | |

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「未来を切り拓く学力・体力の向上」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の推進 ・深い学びの鍵である「音楽的な見方・考え方」を働かせる場面を設定する。 | B |

| | |
|---|--|
| ・「音楽的な見方・考え方」とは、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などに関連づけることであると考えられている。 | |
| 指標 ・音や音楽を形づくっている要素とその働きに気付ける場面を設定する。 ・自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと、音や音楽を形づくっている要素が関連付いていると気付ける場面を設定する。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 音楽の授業において、「音楽的な見方・考え方」を働かせられるようにするために、以下の２点を改善していきたい。①指導内容を学習させる上でどのような情報を授業内で生徒に伝えるのかを考える。そのためには、詳しく教材研究をして楽曲についての理解をさらに深める必要がある。②鑑賞分野だけでなく、歌唱・器楽・創作の授業においても、指導内容についての理解を深めさせる。そのために、文化的背景と指導内容を結び付けた授業展開を考える必要がある。 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 文化的背景を伝えたとしても、音楽についての理解があまり深められない場面があった。具体的には、文化的背景の情報を伝えるタイミング、伝える情報の精査である。そもそも、今回授業で取り扱う教材には、どのような文化的背景があるのかという教材研究が非常に重要になってくると感じた。 | |

大阪市内立 加美中学校 令和４年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「学びを支える教育環境の充実」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| 取組内容①【基本的な方向 6、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ・ ICT を活用した教育の推進 | B |
| 指標 ・ 1 単元に 1 回は必ず ICT を活用する場面を設定する。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 1 単元に 1 回は必ず ICT を活用する場面を設定できた。特に、全体に向けて、電子黒板を活用することはできた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 現状では電子黒板を用いて授業を行うことが多い。そこで、次年度以降はタブレットや録音機器など、生徒の実態に応じて使う ICT 機器を変えていく。 | |

美術科

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「未来を切り拓く学力・体力の向上」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| 取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・定期テストを行い学習に対する意欲、また鑑賞の授業を行うことで感性を高め、美術文化に対する理解を深める。 ・長期休業中の宿題を定着させることで家庭での学習・制作意識を高める。 | B |
| 指標 ・1、2学期にテストを行い、学習理解度を計る。また鑑賞の授業を各学年、年2回以上実施する。 ・長期休業中の宿題を1・2年生は年2回、3年生は年1回実施する。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| ・各学年、年に2回の筆記テストを行い、美術文化に対する理解、制作知識を深めた。また、長期休業中の宿題を実施することで家庭での学習意識を高めた。 ・鑑賞授業を通して生徒の興味関心、意欲を高めることができた。また他者の作品を見ることでお互いの創意工夫、自分と他者の良さを認め合うことができた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| ・年間を通じてバランスよく実技、鑑賞ができるよう教材を工夫する必要がある | |

保健体育科

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「未来を切り拓く学力・体力の向上」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能の定着を図り、生徒一人ひとりの基礎体力の向上を目指す。 ・コミュニケーション能力を高めるとともに自主的・自発的な活動を定着させる。 ・生涯にわたって運動に親しむ習慣を身に付け健康に対する意識を高める。 | B |

| | |
|--|---|
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の成長段階に応じた基礎運動を行い、運動量を確保し、個々の理解力と能力の向上に努める。 ・自主性を高めながら、運動に取り組めるようにする。またアクティブラーニングを意識しペアワークを單元ごとに必ず取り入れる。 ・学期ごとにアンケートをとり、『運動をすることが楽しい』と肯定的な回答する生徒が70%以上になるようにする。 ・実技や保健学習を通して健康安全を意識し周囲に配慮できる生徒を育成する。 | |
| <p>取組内容②【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容や教材の特性を見極め、補強運動を実施し、運動量を確保する。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間2種目以上の補強運動を行い基礎体力の向上を図る。 ・全国体力・運動能力調査で男女1種目以上大阪市平均を上回る。 | B |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>取組内容①</p> <p>各種目において生徒の発達段階に応じた取り組みを行い、基礎的な動きを丁寧に反復し学んだことで運動能力向上させることができた。</p> <p>基礎基本の徹底の反面「私は体を動かすことが好きである」という質問に対して69.8%と当初の目標を超えることができなかったため、生徒の能力を鑑み、指導方法とカリキュラムを再構築していく。</p> <p>取組内容②</p> <p>各学年、体育の授業の中で、補強運動を3～4種目程度行い、運動習慣の定着が見られた。</p> <p>今回の全国体力・運動能力調査において2種目が全国平均以上となった。</p> | |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| <p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎から実践的な内容に年度を通して発展させ、種目の楽しさを一層理解させ、生涯にわたって運動を楽しむ姿勢を養わせる。 ・全学年ともグループワークやペアワークを習慣化させ、コミュニケーション能力を高めつつ、自発的に物事を考え、行動に移せるように授業を展開する。 ・体を動かすことが好きという肯定的回答を今年度以上に高めていく。 <p>取組内容②</p> <p>保健の授業で、知識を深めさせ、運動の意義と運動習慣の定着を図れるように工夫する。</p> | |

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「学びを支える教育環境の充実」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| | |
|---|----------|
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成 状況 |
| 取組内容①【基本的な方向番号6、教育DXの推進】 ICT機器を用いた効率的な授業内容の確立 | B |
| 指標 ICT機器を保健、体育実技ともに取り入れ体力の向上に努める。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 体育実技だけではなく、保健の授業においても、ICT機器を積極的に使い、生徒が理解しやすいよう、動画なども駆使したことで、運動の分析に対する発言や行動する時間を多く設けることができた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 次年度もICT機器を使用し、生徒の個々の運動能力の向上と知識の理解に努める。 | |

技術家庭科

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「未来を切り拓く学力・体力の向上」

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|--|------|
| 取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・授業や生活での体験を工夫し生かす。 | B |
| 指標・長期休業中に創意工夫できる内容の課題を与える。 | |
| 取組内容②【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・生活の技能を高めるため、実習内容を工夫しわかる授業を目指す。 | B |
| 指標・創意工夫ができる教材を選択する。 ・ICTを活用し、資料や映像を見せて視覚的にわかりやすい授業を作る。 | |
| 取組内容③【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・生活に必要な知識や技術の理解度を高める。 | B |

| | |
|---|--|
| 指標・学習内容に応じて自己評価を行なう。 ・定期テスト以外でも理解度をはかり、ノート点検も定期的に行う。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| | |
| 次年度への改善点 | |
| | |

英語科

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「安全・安心な教育の推進」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| 取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・コミュニケーション活動を授業に取り入れ、楽しく話す習慣を身につけさせる。 ・C-NET との TT の授業の中で、楽しい雰囲気の中で聞く力・話す力の強化を図る。 ・授業の中で外国の音楽を聴く、季節の行事など文化的な面での知識を紹介し、英語を話す国・文化圏に対する興味、関心を深めさせる。 | B |
| 指標 ・5月と1月にアンケートを実施する。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| ・授業の最初にコミュニケーション活動を取り入れた。簡単な受け答えを楽しみ雰囲気の中で練習することができた。 ・C-NET との TT の授業の中では概ね楽しい雰囲気で行うことができた。その中でたくさんの生徒が難しいながらも前向きな気持ちで、授業に参加できた。 ・授業の中で外国の音楽を聴いたり、季節の行事など文化的な面での知識を紹介することができた。英語を話す国・文化圏に対する興味、関心を深めることに大きく役立った。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 一年生の初めから一人一人の生徒の習熟度に大きな差があり、同じ教室で同じ授業を受けることが困難な場面が多々ある。それぞれの学年でカリキュラムの進度を調整しながら、個々の力にあった授業展開をできる限り早い段階で実施していくことが必要になってきている。 | |

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「未来を切り拓く学力・体力の向上」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒が一人で家庭学習ができる教材、反復教材を宿題として出し、その課題を間違いのないように全員が確実に提出できるように根気強く指導し、家庭での学習の習慣と提出物等に関しての意識を全ての生徒に定着させる。・単元ごとに単語テストを実施する。範囲を狭く設定し、目標を達成できなかった生徒は追試を行い、合格できるまで指導する。基本的な語彙をすべての生徒に身につけさせる。・各学年の授業でテスト前に習熟度の授業を行い、学力の底上げを図る。 | B |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・1年間ほぼ毎回の授業で課題を出す。提出率80%以上を目標とする。ミスのあった場合は、それを指摘してミスがなくなるまで再提出を繰り返す。・「家で学校の宿題(学校の復習)をしている。」と回答する生徒の割合を向上させる。・単語テストの平均正答率75%以上をめざす。・習熟度の授業はテスト毎に実施する。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <ul style="list-style-type: none">・プリントの課題とその指導は一年を通して実施できた。生徒たちにも定着している。・単語テストに関しても続けて実施し、生徒の語彙力を底上げすることができた。・習熟度別の授業展開は実施できていない。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <ul style="list-style-type: none">・生徒の英語力の差を埋めるため、習熟度別授業や補習授業の実施を考えていかなければならない。 | |

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「学びを支える教育環境の充実」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | | 達成 状況 |
|---|---|----------|
| 取組内容①【基本的な方向 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ・英語科の授業や家庭学習を進める中で、タブレットを効果的に活用していく。 | C | |
| 指標 ・どのような形でもよいのでタブレットを使う。 | | |
| 取組内容②【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 ・小学校との連携を図る。 | A | |
| 指標 ・小学校との定期的なつながりを確保する。 | | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | | |
| ・小学校とのつながりはできているが、まだ全体のものとはなっていない。小学校からの情報を中学校の教員で共有する取り組みが必要である。 ・タブレットに関しては、授業に取り入れるための情報、知識を手に入れる必要がある。 | | |
| 次年度への改善点 | | |
| ・小学校に行く教員との情報共有の場を設ける。 ・タブレットは使う。 | | |

道徳科

大阪市立 加美中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
最重要目標「安全・安心な教育の推進」

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業に使用する教材の研究、整備、共有化を進め、系統的、継続的な取り組みが出来るように進める。 ・教科書とワークシートなどを通して授業を展開することで、生徒の自己を啓発する。 ・すべての内容項目において生徒の道徳心を深める。 <p>指標・生徒を対象とした学校アンケートにおいて「自分には、良いところがあると思う。」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と答える生徒の割合を70%以上にする。</p> | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 次年度への改善点 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・教科書とワークシートなどを通して授業を展開し、生徒の自己を啓発することに努めた。 ・指標にある生徒を対象とした学校アンケートにおいて「自分には、良いところがあると思う。」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と答える生徒の割合は77.9%となった。大阪府の平均を上回り、前年度より2.7%上昇したが、全国平均には至らなかった。全国平均を上回るように努めたい。 ・すべての内容項目において計画的に生徒の道徳心を深めることができた。 ・道徳の授業に使用する教材の研究、整備、共有化を進め、系統的、継続的な取り組みが出来るように進める。 ・道徳心を深めるために目的を明確化していく。 ・次年度からは道徳推進委員会の授業研究を参考にした、「気づき」に基づいた発問を中心にする授業展開に加え、生徒同士の対話や考えからより深い道徳授業を確立させていきたい。 | |